

# スーパーマーケット景気動向調査

## 2019年2月調査結果（1月実績） （2019年2月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

### 【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

#### 経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

### 【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

#### 景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会

## 2月調査（1月実績）結果概況

### 景気判断DIは2012年11月以来の30台まで悪化

1月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は前月から-3.7の39.6、見通し判断は前月から-2.2の39.4となり、共に30台まで悪化した。現状判断DIが30台を記録したのは、2012年11月以来。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に3ヵ月連続で二桁マイナス圏を記録した。青果相場安に加え、前年高騰からの反動が加わり、生鮮仕入原価DIは-6.5まで低下した。また前年の降雪予報による買いだめ需要の反動により、買い上げ点数も伸び悩み、客単価DI-7.8まで低下した。来客数DIは前月よりやや上昇したものの-14.0と低迷している。

カテゴリー動向調査では、青果相場安に加え前年より高い気温により、鍋用商材を中心に不振となり、青果DIが-23.4と2ヵ月連続で大幅なマイナスを記録した。また畜産DIや日配DIも気候や買いだめ需要の反動を受け二桁のマイナスまで低下した。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、特に現状判断の悪化幅が大きく、調査開始以来の最低水準まで悪化した。これまで堅調に推移してきた周辺地域景気判断にも下降トレンドが鮮明となっている。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

高い気温、相場安、買いだめの反動と前年との比較での悪条件が重り、景況感は大幅な悪化をみせた。加えて、周辺地域景気判断DIの悪化にみられるように、消費環境にも黄色信号が点灯している。2014年以降、主に客単価上昇に支えられ堅調に推移してきた。この先も外部環境の好転が期待できないなか、再び上昇基調を取り戻すために、来客数や客単価に対する抜本的な対応が必要な時期を迎えている。

#### 景況感調査

##### 現状判断

<b>景気判断DI</b> 当月： <b>39.6</b> (-3.7) 前月：43.3	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月： <b>40.3</b> (-3.7) 前月：44.0	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月： <b>40.0</b> (+0.4) 前月：39.6	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月： <b>43.0</b> (-2.3) 前月：45.3
--	---	---	---

##### 見通し判断

<b>景気判断DI</b> 当月： <b>39.4</b> (-2.2) 前月：41.6	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月： <b>40.3</b> (-0.9) 前月：41.2	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月： <b>38.9</b> (-0.1) 前月：39.0	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月： <b>42.5</b> (-1.6) 前月：44.1
--	---	---	---

#### 経営動向調査 経営状況

<b>売上高DI</b> 当月： <b>-16.8</b> (-3.2) 前月：-13.6	<b>客単価DI</b> 当月： <b>-7.8</b> (-6.0) 前月：-1.8	<b>来客数DI</b> 当月： <b>-14.0</b> (+2.1) 前月：-16.1	
<b>収益DI</b> 当月： <b>-12.1</b> (-1.8) 前月：-10.3	<b>販売価格DI</b> 当月： <b>-4.2</b> (+0.1) 前月：-4.3	<b>生鮮品仕入原価DI</b> 当月： <b>-6.5</b> (+0.1) 前月：-6.4	<b>食品仕入原価DI</b> 当月： <b>1.2</b> (-0.6) 前月：1.8

#### カテゴリー動向

<b>青果DI</b> 当月： <b>-23.4</b> (+1.5) 前月：-24.9	<b>水産DI</b> 当月： <b>-5.4</b> (-0.3) 前月：-5.1	<b>畜産DI</b> 当月： <b>-12.0</b> (-2.4) 前月：-9.6	
<b>惣菜DI</b> 当月： <b>-2.2</b> (+2.0) 前月：-4.2	<b>日配DI</b> 当月： <b>-14.6</b> (-4.7) 前月：-9.9	<b>一般食品DI</b> 当月： <b>-9.3</b> (-3.0) 前月：-6.3	<b>非食品DI</b> 当月： <b>-9.9</b> (+1.5) 前月：-11.4

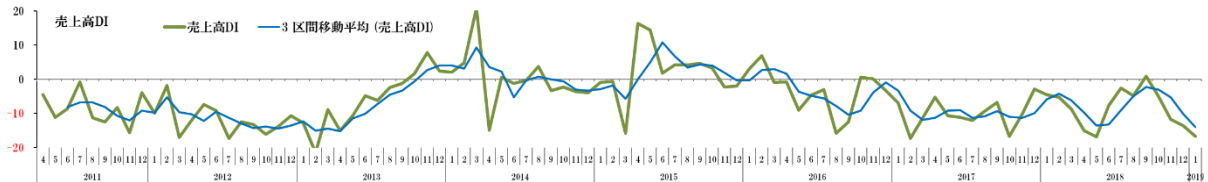
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

## 2月調査（1月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

### 1. 売上高DI

3ヵ月続けて二桁マイナスを記録し低迷

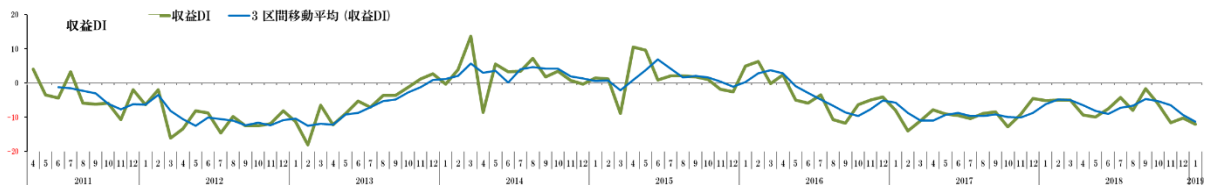
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	15.6	40.0	30.0	12.2	2.2	-13.6
売上高（当月）	18.6	43.7	24.6	12.6	0.6	-16.8



### 2. 収益DI

3ヵ月続けて二桁マイナスを記録し低迷

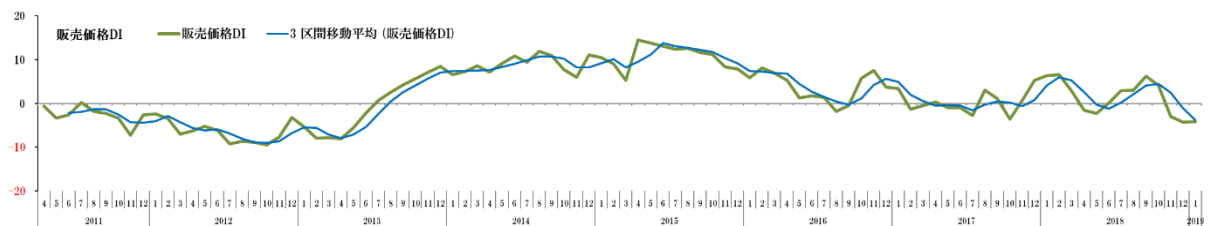
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	11.2	39.9	33.1	10.1	5.6	-10.3
収益（当月）	14.1	41.7	25.2	16.6	2.5	-12.1



### 3. 販売価格DI

小幅なマイナス圏での横ばい推移

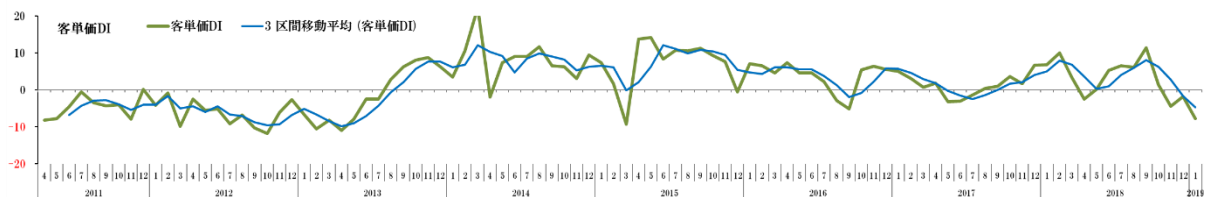
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	1.7	25.7	60.9	11.7	0.0	-4.3
販売価格（当月）	1.2	25.7	61.7	11.4	0.0	-4.2



### 4. 客単価DI

マイナス幅を拡大し、2015年3月以来の水準まで低下

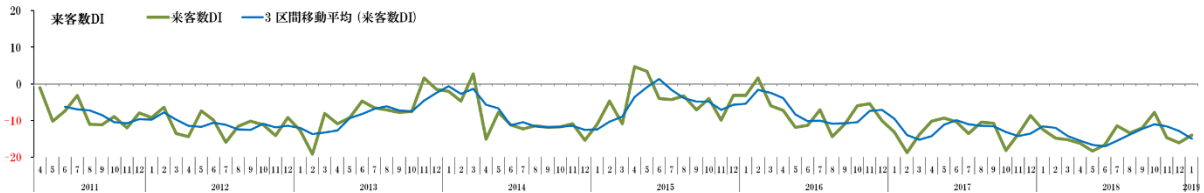
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.1	28.5	48.0	21.2	1.1	-1.8
客単価（当月）	0.6	43.1	43.1	13.2	0.0	-7.8



## 5. 来客数 DI

やや回復も二桁マイナス圏での低迷続く

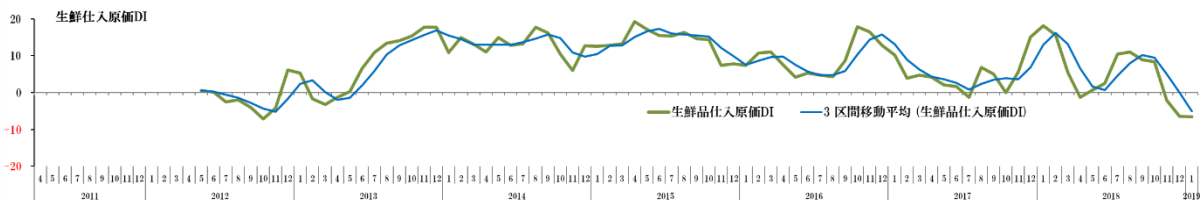
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	15.6	43.6	30.7	9.5	0.6	-16.1
<b>来客数 (当月)</b>	<b>16.3</b>	<b>39.8</b>	<b>29.5</b>	<b>12.7</b>	<b>1.8</b>	<b>-14.0</b>



## 6. 生鮮仕入原価 DI

3カ月連続でマイナス圏での推移

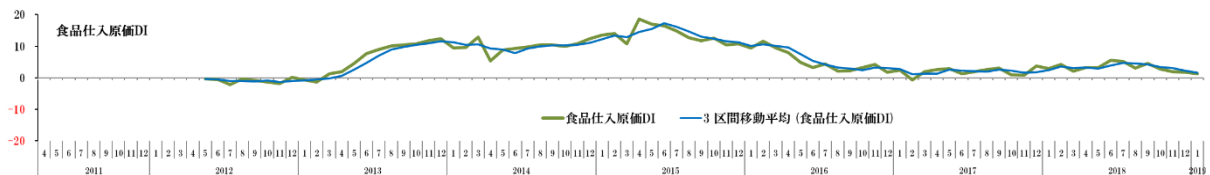
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	8.5	27.1	45.8	18.6	0.0	-6.4
<b>生鮮仕入原価 (当月)</b>	<b>6.1</b>	<b>31.5</b>	<b>45.5</b>	<b>16.4</b>	<b>0.6</b>	<b>-6.5</b>



## 7. 食品仕入原価 DI

小幅プラス圏での横ばいでの推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.2	9.6	68.0	19.1	1.1	1.8
<b>食品仕入原価 (当月)</b>	<b>2.4</b>	<b>10.8</b>	<b>66.9</b>	<b>19.3</b>	<b>0.6</b>	<b>1.2</b>

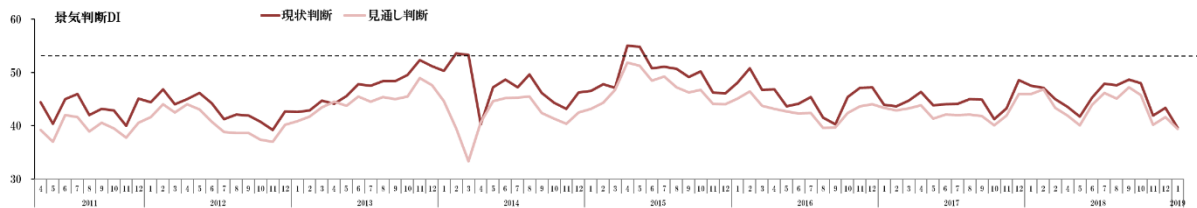


## II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

### 1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は2012年11月以来の30台まで悪化

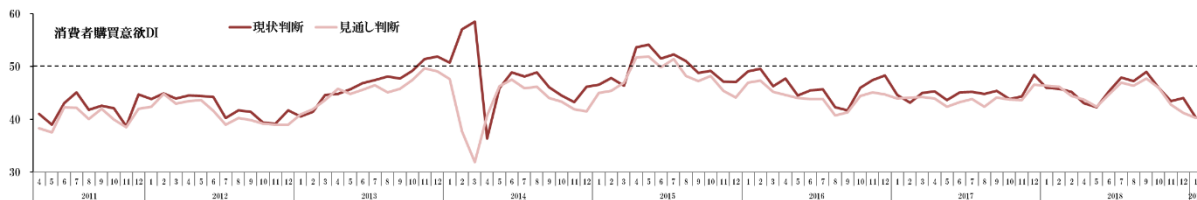
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	5.0	27.2	58.3	8.3	1.1	43.3
【現状】景気判断 (当月)	5.4	35.7	54.2	4.8	0.0	39.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	5.6	30.2	57.0	6.7	0.6	41.6
【見通し】景気判断 (当月)	5.4	36.5	53.3	4.8	0.0	39.4



### 2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は大幅に悪化するも、先行きは小幅な悪化にとどまる

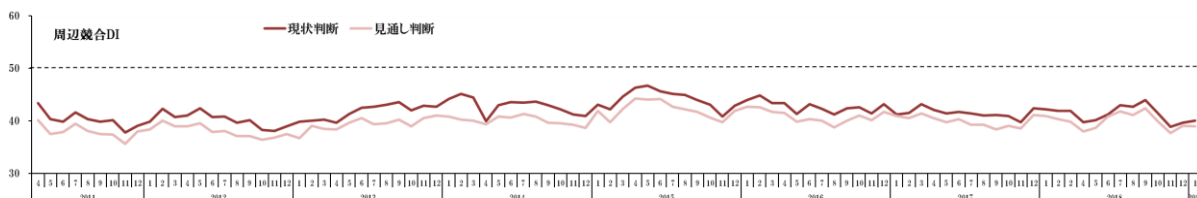
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.7	28.3	62.8	6.7	0.6	44.0
【現状】購買意欲 (当月)	2.4	39.5	52.7	5.4	0.0	40.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.2	34.1	60.3	3.4	0.0	41.2
【見通し】購買意欲 (当月)	3.0	37.7	54.5	4.8	0.0	40.3



### 3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に大きな変化はみられず

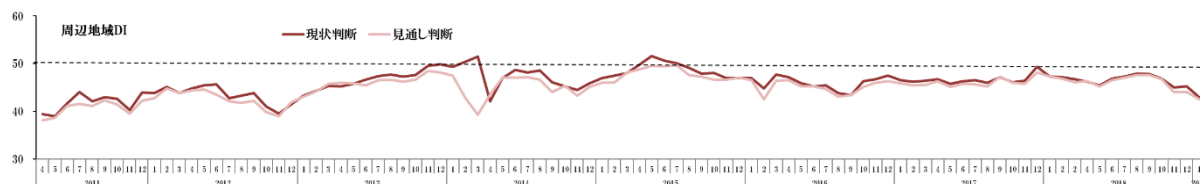
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	6.7	30.9	59.6	2.8	0.0	39.6
【現状】競合状況 (当月)	6.0	30.5	61.1	2.4	0.0	40.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	7.3	31.6	58.8	2.3	0.0	39.0
【見通し】競合状況 (当月)	6.0	34.7	56.9	2.4	0.0	38.9



#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断ともに悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.7	17.9	78.2	2.2	0.0	45.3
【現状】地域景気 (当月)	2.4	24.6	71.9	1.2	0.0	43.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.7	21.9	74.7	1.7	0.0	44.1
【見通し】地域景気 (当月)	2.4	25.7	71.3	0.6	0.0	42.5



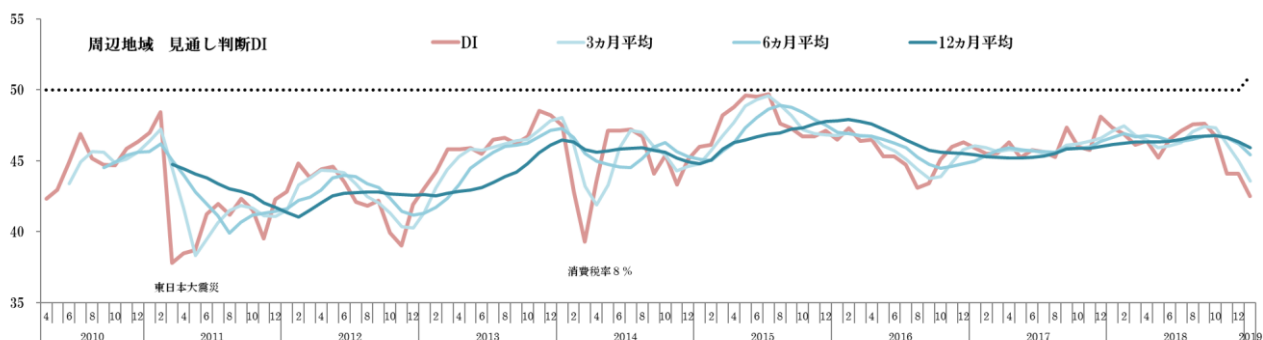
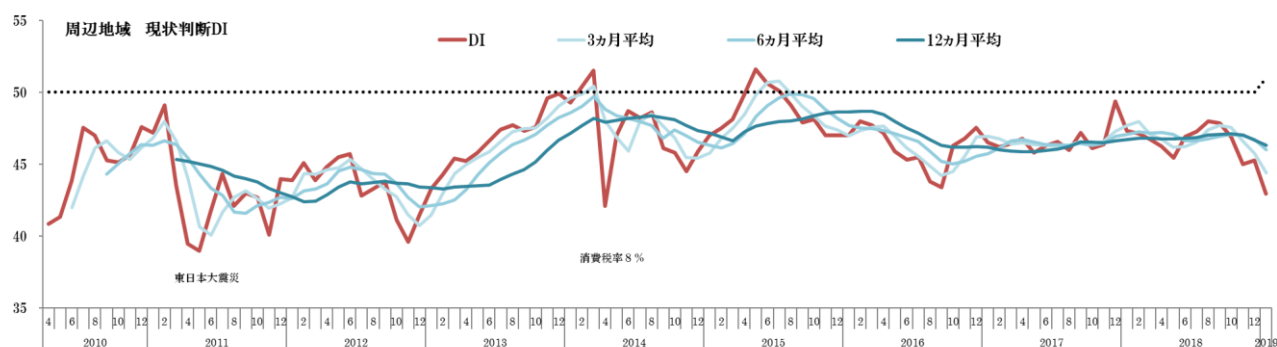
#### ※長期傾向 (2010年4月～)

11年3月の東日本大震災後低迷を続けていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。

14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。

しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下した。その後6月以降は持ち直し改善傾向が続いた。

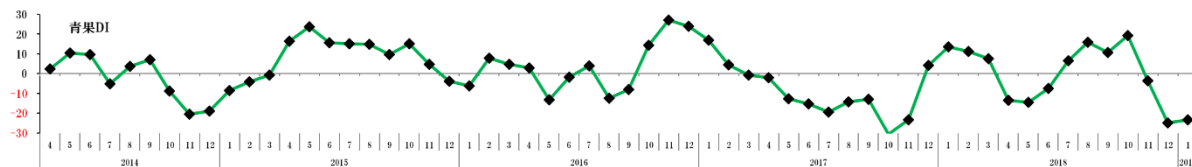
10月から再び悪化幅を広がり、11月にはすべての移動平均線がマイナス方向に転換し、弱含みの推移となっている。



### Ⅲ. カテゴリー別動向

#### 1. 青果DI：-23.4（かなり不調）

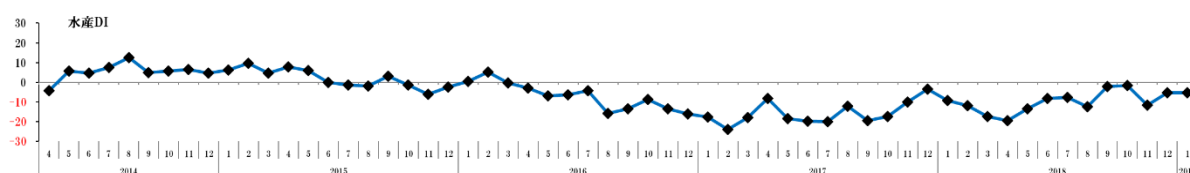
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	32.9	42.4	17.1	6.5	1.2	-24.9
<b>青果 (当月)</b>	<b>34.4</b>	<b>38.8</b>	<b>15.6</b>	<b>8.8</b>	<b>2.5</b>	<b>-23.4</b>



前月から白菜や大根など大型野菜を中心として相場安が続いており、加えて前年の相場高騰からの反動も加わり、単価が大幅減となった影響を受けた。また前年より気温が高く、菌類など鍋物関連野菜の動きが悪くなった。サラダ関連やカット野菜も伸び悩んだが、相場の安定しているトマトやピーマン、健康報道のあった玉ねぎなどは比較的堅調となった。国産果物類は好調とする店舗が多く、前年高騰により不調であったみかんをはじめ、イチゴ、りんご、輸入果物ではキウイフルーツの動きがよかった。

#### 2. 水産DI：-5.4（やや不調）

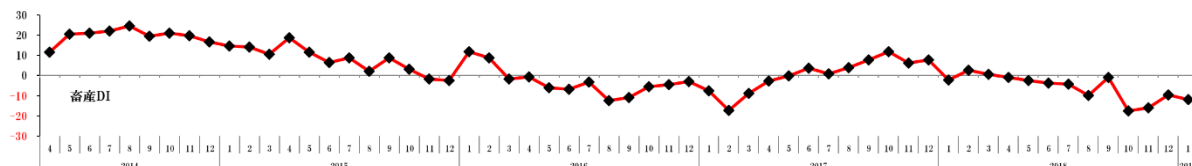
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	10.6	31.8	29.4	24.1	4.1	-5.1
<b>水産 (当月)</b>	<b>11.4</b>	<b>29.1</b>	<b>32.3</b>	<b>24.1</b>	<b>3.2</b>	<b>-5.4</b>



前年より高い気温により鍋物用食材（ぶりや牡蠣、タラなど）の不振が続いた。気温が低下した地域ではエビやカニに回復傾向がみられた。生魚は引き続き、水揚げ量の減少や価格高騰により苦戦している。年始商戦の刺身類は好調に推移したものの、その後は伸び悩んだ。一部にはサラダ用や簡便商品の取扱い強化の動きもみられた。アニサキス報道による低迷からの回復を指摘するコメントもみられた。

#### 3. 畜産DI：-12.0（不調）

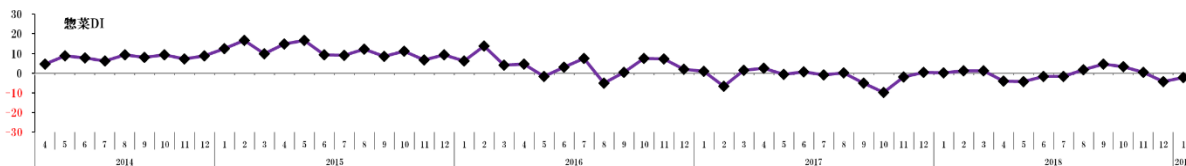
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	12.9	33.5	34.1	17.6	1.8	-9.6
<b>畜産 (当月)</b>	<b>14.3</b>	<b>39.1</b>	<b>28.0</b>	<b>17.4</b>	<b>1.2</b>	<b>-12.0</b>



前年より気温が高い地域が多く、鍋物用を中心に動きが悪かった。牛肉は焼肉やステーキ用などが焼きメニューが堅調だが、年始はブランド牛の動きもよかったが、その後は輸入牛が牽引した。豚肉は相場が下落傾向にあり、価格訴求により販売数量を伸ばした店舗が多かった。鶏肉は気候条件に加え、相場の低下も影響しており、伸び悩んだ。ハムやソーセージなどの加工肉を特に不調にあげるコメントが多かった。

#### 4. 惣菜DI：-2.2（やや不調）

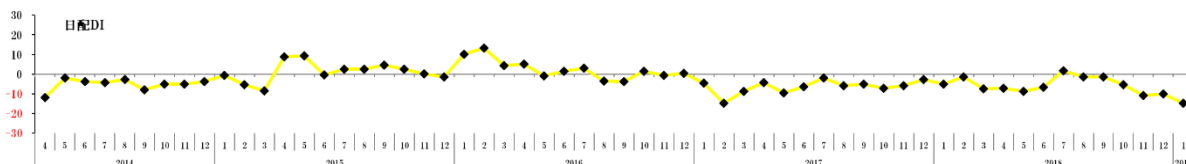
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	5.4	32.3	40.7	16.8	4.8	-4.2
<b>惣菜（当月）</b>	<b>6.3</b>	<b>26.6</b>	<b>39.2</b>	<b>25.3</b>	<b>2.5</b>	<b>-2.2</b>



雨や雪が少ないなど天候に恵まれたため、弁当やおにぎりなどが好調に推移した店舗が多かった。年始商戦のオードブルなども好調に推移した。旬の食材を使った季節感のある商品の動きがよい一方で、前年青果相場の高騰により好調であったサラダ関連は反動で不振、寿司類も不調となった。人手不足により十分に商品供給ができなかった店舗もみられた。

#### 5. 日配DI：-14.6（不調）

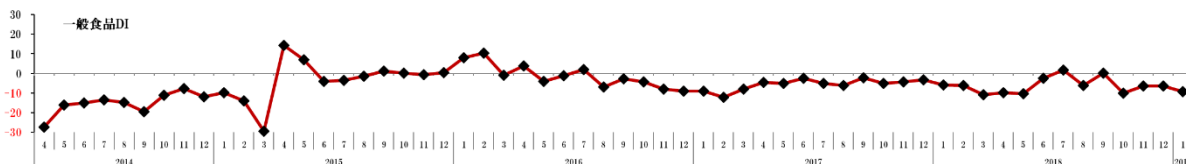
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	12.9	31.0	40.9	13.5	1.8	-9.9
<b>日配（当月）</b>	<b>15.5</b>	<b>39.1</b>	<b>34.2</b>	<b>10.6</b>	<b>0.6</b>	<b>-14.6</b>



前年より高い気温により、鍋おでん商材関連の和日配や麺類などのホットメニューの動きが悪かった。また前年との青果相場の違いにより、漬物や冷凍野菜は不調となった。健康報道により納豆、甘酒、梅干しには特需が続いている。機能性ヨーグルトはインフルエンザ流行により好不調が分かれた。牛乳は不調だが、チーズを好調とするコメントが多い。冷凍食品やパン類には前年降雪予報時の駆け込み需要からの反動がみられた地域もあった。

#### 6. 一般食品：-9.3（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	7.1	31.8	41.2	19.4	0.6	-6.3
<b>一般食品（当月）</b>	<b>11.2</b>	<b>32.9</b>	<b>39.8</b>	<b>14.3</b>	<b>1.9</b>	<b>-9.3</b>

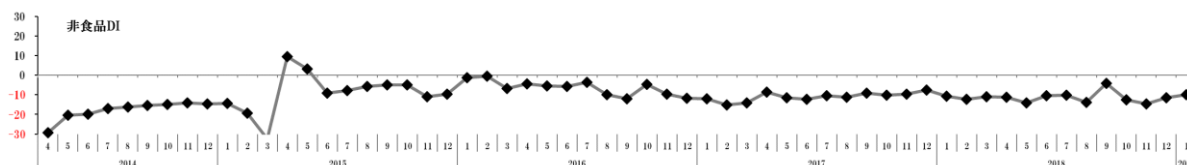


前年より高い気温により鍋用調味料や麺類やシチューなどホット商材は総じて不振となったが、飲料類は堅調に推移した。野菜相場安の影響か、ドレッシングやマヨネーズが好調とのコメントもみられた。報道によりサバ缶をはじめとする水産缶詰やえごま油などの食油、もち麦などの雑穀に特需が継続している。米類はやや伸び悩んでいる。酒類はウイスキーが好調とのコメントが多い。ドラッグストアやディスカウントストアとの価格競争を厳しさへの指摘が目立った。



## 7. 非食品DI：-9.9（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	13.3	34.3	39.2	11.4	1.8	-11.4
非食品（当月）	12.2	34.0	35.9	17.3	0.6	-9.9



前年より高い気温により衣料品やカイロなどの季節品は不調となったが、マスクなどのインフルエンザ対策用品の動きがよかった店舗がみられた。タバコは値上げ後の落ち込みが落ち着き堅調に推移した。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しく低迷が続いている。

### カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20      好調：20～10      やや好調：10～0  
 やや不調：0～-10      不調：-10～-20      かなり不調：-20～

### 2019年2月調査（1月実績）キーワードTOP3

1. 青果相場安（前年高騰）
2. 冬物商材不振（前年より高い気温）
3. 降雪予報による買いだめ需要からの反動

### スーパーマーケット景気動向調査 集計数

1月実績速報版 168社  
 12月実績確報版 180社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 [tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)